



連合第83回メーデー中央大会

メーデー・スローガン

日本全体でつながり・支えあおう！
すべての働く者の連帯で働くことを軸とする
安心社会を実現しよう！

連合中央は4月28日、東京・代々木公園で「第83回メーデー中央大会」を開催した。JR総連組合員は新宿中央公園からの結集デモから参加。約400名のデモ隊で、脱原発・原発再稼働反対を訴えた。

連合・古賀会長はあいさつで、東日本震災での被災を風化させず、復興・再生へ連帯行動を継続していくと表明。働くことを軸とする安心社会の実現を強調した。また、政治の混乱に失望と落胆を示し、リーダーシップのある政治で政策課題実現への合意形成を求めた。

来賓の野田首相は、子どもたち、地方、働く人の「3つの元気」の実現のためとして「社会保障と税の一体改革」を訴えた。ほかにも小宮山厚労大臣ほかがあいさつ。国連UNHCR協会、非正規労働者からの訴えや、連合東北ブロック連絡会からは復興応援を求めた代表アピールがおこなわれ、「メーデー宣言」が採択された。

今年のメーデーは、早朝から例年通り人通りのない結集デモコースが設定されるなど、参加する側にも力が入らないというのが総体として労組側の本音だ。マスコミ報道では「高い失業率が続く中で組合離れには目を覆うばかり」として「メーデーの存在がかすんでいる」と例えられるなど、切迫感の感じられぬ「中央大会」となった。現実には派遣・契約社員が増加し、2012春闘はベアを求める労組すら少ない大敗北の中、「働くものを軸」とした安心社会は見えてこない。

メーデーは、労働者の地位向上と平和を求め、弾圧に抗した闘いの歴史があることも忘れてはならない。労組とその連合体の「力」を発揮し、現実課題の解決をめざして闘おう。



【メーデー】1986年5月1日、アメリカの労働者が8時間労働を求めた統一ストライキでの闘いが起源。日本では1905年、幸徳秋水や堺利彦らが「平民社（『萬朝報』発行の新聞社）」でおこなった集会（茶話会）が起りだ。第1回メーデーは1920年に東京・上野公園で8時間労働や失業防止、最低賃金補償などを求めて1万人で行われた。しかし「治安維持法」や「戒厳令」による弾圧下で1936年から1945年まで開催されなかった。1946年に復活した第17回メーデーは「働くだけ喰わせろ」をスローガンに別名「食糧メーデー」と言われ、東京で50万人が集まった。1952年の第23回メーデーでは、日米安保条約の抗議もスローガンに入れられ、警官隊と衝突。「血のメーデー」と言われる。